

平成27年北栄町議会議員研修報告書

1. 日 時	平成27年10月27日～29日 2泊3日
2. 調査地	鳥取県八頭町 大阪府柏原市 大阪府泉南市 京都府綾部市 兵庫県香美町
3. 調査内容	<ul style="list-style-type: none">・6次産業化の取り組みについて（直営カフェ・通信販売）・6次産業化の取り組みについて （ワイナリー・地域協働によるぶどう栽培）・6次産業化の取り組みについて （障がい者雇用の促進にむけた農福連携の取り組み）・水源の里事業の取り組みについて （限界集落の維持・再生に向けた取り組み）・ふるさと教育の推進について （学校・地域における取り組み）
4. 調査結果 又は概要	<p>有限会社ひよこカンパニー こだわりの卵の生産・販売・スイーツという従来なかった商品開発に取り組み新たなマーケットを創出している。 卵の直売や卵の生産過程で発生する規格外卵等未利用資源の活用策としてスイーツ加工し販売を行う「ココガーデン」をオープン。 年間の利用客は10万人を超え平日でも満席、土日等休日には入店待ちが発生する状況となっている。 こだわりの卵は、産卵の次の日には、東京・大阪をはじめ全国約18万人のお客様に通信販売で届けている。 この会社の経営理念は地域との共生を掲げ、地域住民と様々な連携を図っている。例えば、飼料米を地元小学生と作り、出来た卵と一緒にバームクーヘンを作る食育の取り組みなど地域全体の活性化を図っている。</p> <p>考察 特産品を通信販売で業者を支援するような仕組みづくり、地域住民との連携を図れるような事業を取り組んで、活性化を図ってはと考える。</p>

カタシモワインフード株式会社

耕作放棄地解消に向け、地域共働によるぶどう栽培を行いワインを作っている。

ぶどう畑の手伝いにレストラン・食堂・消費者を抱き込みボランティアで作業を手伝い、楽しみにしている人は460人。

事業内容等を消費者に発信し、地産地消の方策を取り、パン屋・レストラン・食堂等とコラボし、ぶどう畑での食事会、古民家の活用等で業績を伸ばしている。

考察

耕作放棄地のぶどう畑も多くあり、検討してみてもと考える。

ハートランド株式会社

コクヨ株式会社が障がい者雇用の促進を目的に、特別子会社を設立し、仕事のすそ野の広い農業に着目して、サラダほうれん草などの水耕栽培で年間60トンを生産している。

また、ヘルシー野菜スープの加工販売も実施し障がい者の人を12名雇用している。

水耕栽培は温度、湿度、溶液濃度など施設管理のウエイトが大きく、それさえクリアできれば、障害を持つ人たちの特性に合った作業の割り振りは可能との説明を受けた。

作業現場では、集中して植え付け作業、箱ずめや検品、道具をきれいに洗う仕事をこなしておられた。

農業を障がい者雇用の新しいビジネスモデルに、大阪府との連携が必要不可欠。

そして、新規参入したい企業などの見学も受け付け「農と福祉の輪を広げたい」とのことでした。

考察

基幹産業である農業において、野菜果物等での農業・福祉連携の推進は可能であり、雇用の場の拡大に取り組んだらと考えます。

綾部市役所

水源の里事業の取り組みについて

綾部市古屋は5世帯うち男性1人、女性5人の方が住まれている限界集落。

男性は62歳。女性は84歳から91歳。女性の多くは80代になってからトチの実を使った特産品づくりにチャレンジしてい

る。

この集落に年間3,000人の人が訪れるとのこと。

転機は、前綾部市長の呼びかけで限界集落の維持・再生に向け「綾部市水源の里条例」が制定された古屋地区が対しよう集落になったこと。

それまでは集落の人が集まって何かやるということではなかったが、1年の話し合いの中で変化があり、特産品としてトチの実を使った餅の出荷やおかき、あられの製品化して村おこしをした。古屋地区は6人の住民と高齢者しかいないので、行政がトチの実拾い、参道の補修等の作業にボランティア募集のお知らせをした。

そのうち有志が自主応援組織「古屋で頑張ろう会」をつくり現在80名の会員がある。

今年も9回実施したので400人以上が村にボランティアできた。ボランティアの人は会費を払ってボランティアをしているとのこと、おどろきです。

これは地元の人が「よし、がんばろう!」という気持ちにならないと、行政が支援したりボランティアの人が来てくれても、続かない。

考察

高齢者を切り捨てるのではなく「よし、がんばろう!」という気持ちにさせる事業を展開してはと考えます。

香美町

ふるさと教育の推進について

将来の自立につながる態度などの育成を目指し、ふるさとものしり博士は60人の人が、ふるさと応援団は700名と多くの人が登録。

このような応援団などを講師に招き、先人の知恵を学んだり、育ててきた作物をさらに加工したり、生かしたりする方法を学ぶなど「体験的なふるさと教育」を推進している。

ふるさとものしり博士・ふるさと応援団を活用しながら、子供ふるさと探検隊や地域での異世代間交流などを通して、子供たちに自然や文化、人材などについて理解する教育の場を設け、ふるさとへの誇りを持ち、自己の夢や志の実現に向かって努力するとともに、ふるさとを大切に作る人づくりに取り組んでいる。たとえば、「土曜チャレンジ学習事業」は、それぞれの区で年間

10回実施し加工品づくり、自然観察、漁業体験、ウォーキング等様々な事業を行っている。

「ふるさとおもしろ塾」は、夏季編・冬季編に分けて事業をしている。

夏季編では、川での生物観察会、星空を見る会、海の水から塩をつくる会、木で作る工作、陶芸教室等16事業。

冬季編はかるた、百人一首、餅つき大会、しめ縄づくり、スキー、雪あそびなど12事業を実施している。

考察

「ふるさともものしり博士」「ふるさと応援団」「土曜チャレンジ事業」「ふるさとおもしろ塾」を立ち上げて、ふるさと教育に取り組んではと考えます。

4. 調査結果
又は概要

5. 所 感